

タウンミーティング議事録

1 日 時

令和6年3月16日（土）午前10時から11時20分まで

2 場 所

オンライン

3 参 加 者

井崎市長、若林総合政策部次長（司会）

4 来場者数

4名

5 質疑回答

次のとおり

Q 市民

よろしくお願ひいたします。画面共有してよろしいでしょうか。

まず、テーマとしては更に就学児も親も住みやすい町にっていうことで、将来機構に繋がるような話ということにさせていただきたいと思ひます。

今日、「子供のための保護者活動を考える会」ということで、それを代表して参加させていただく形なんですけども、去年の10月ぐらひにPTAとか保護者会、市P連の本質を考える会をやりまして、それこそいろいろな形で、PTAとかいろいろ問題なっているかなと思ひなんですけども、それは本当透徹的に、クリーンな形で、イベントさせていただきまして、それを踏まえた形になります。よろしくお願ひいたします。

私の自己紹介なんですけども、小山小学校でPTAをしていまして、今年で4年目なんですけども、それこそPTAで本当に保護者が学校とかを身近に感じるような組織だと思ひなんですけども、なかなか活動内容がわからなかったりとかっていうところで課題があったので、保護者に出せる、皆さんに出せる公開をするような形で、どんどん活動を変えてきました。

活動は全部保護者の選択制にしたりとか、強制感とか負担感をなしにしたりとか、GIGAスクールを導入されたこと伴いまして、子供たちも端末配布されたので、保護者もWebツールを使ってもらったりとか、あと発信に特に力を入れて、今、保護者のボランティアの方にブログを作っていたらいいんですけど、大体月に三、四回ぐらひブログで学校の様子など発信していただいて、活動や様子もよく知っていたらいい形ですね。

本部役員とか完全立候補制にした上で、DXとかを活用した上で、それこそ、もともとは旗本番ですね、シフトの作成が大変だったっていうので、その効率化をやったんですけども、それを学校の先生に話したところ、これって個人面談とかも使えるんじゃないのっていう先生方から提案がありまして、これ面白そうだなということに今、実は個人面談シフトの作成にも展開していると。そういう形で活動しています。

そのような活動をやっていく中で、それを市内に広げていきたいと思ひていまして。そういうことを、市内の市P連っていうのがあったので、それを、そんなことできないかなというか、考えたんですけども、市P連の方に持っていくと、輪番制で、会長はその中学校の会長だけが市P連の会長になれる仕組みだったりとかで、なかなか活動を形骸化してるように変えにくいという実態がありまして、本当はよく機能している市P連っていうのは、各PTA

の支援を行ったりとか、保護者の声を行政に伝える役割とかっていうふうになっていて、それで結構保護者の満足度が高かったりするんですけども、それがもう全然できなかったというところで、私の方で、4年間活動に参加して変えたいと思ってやってきたんですけども、正直なかなか変えられなかったということで、小山小学校で市P連脱退を検討しているんですけども、同じように市P連を抜けようとしている学校がかなり多くてですね、ここ2年間でもう8校ぐらいの学校が退会して、来年の頭ぐらいでもう加入率が6割を切るぐらいの形になっています。

ただ、そういう状況だと本当に保護者の声がやっぱり、行政になかなか伝えられなくなるので、それに代わる役割として、それこそ何かできないかなというところで、それこそ市P連に入っていようが入ってなかが学校間の繋がりを維持できるようにということで、LINEWORKSで誰でも参加できるアカウントを作ったりとか、あとはこのイベントとかやったりして活動を続けているところです。

そういった中で、繋がっているのでもいろいろ意見交換したりとかして、こんなことが課題だよなって、こんなことしたらいいよね、みたいなことを保護者と話し合うんですけども、その中でこう出てきたことですね、流山市として、すごく子育て世代誘致に成功していて、学校もマンモス校が多くて児童もたくさんいるんですけども、未就学児向けの、保育士さんに給与補填したりとかっていう未就学児のケアって結構目立つんですけども、就学してからっていうところが、やっていることはあるんですけども、なんかあんまりこう発信できてないなって正直感じるところもあったりとかで、あとはそのPTAの活動とかやっぱなかなか理解が進んでないところもあってなかなかそこは、ネックになっているかなと思っていて、まず、そういった保護者の声を行政に伝えるような役割っていうのは、やっていきたいかなと思っています。

今回、具体的にこの赤ポツの2点ちょっと要望させていただきたいんですけども、これ実は市長にはすでにお話させていただいてるんですけども、今PTA主導で小山小学校と南流山小でOTTAという見守りサービスですね。これを導入していて、大体、7割ぐらいの方に使ってもらっていただいています。実は個人の特定しない形の位置情報が特定できるので、そういうことを将来の都市計画にも使えるっていうところですのですごくいいなと思ってはいるんですけど、やっぱりなかなかPTA指導で導入するってことは、ハードルが高いと

いうところで行政のサポートいただけないかということをお願いしたんですけども、まだ2校しか導入してないっていうところと他の学校がどう思っているかわかんないで、市長からも、中部と南部地区は導入できたとしても他の地区がどうなのかっていうところがよくわかんないみたいな話があったので、それを踏まえて要望書みたいな形を作ってどれぐらいの方が賛同いただけるかなっていう活動をしていまして、現状としては市内の7つの小学校が賛同していただいています。ただ、これ7校の内訳が正直かなり地域性が出ていまして、南部は4校中3校が賛成しています。中部は5校中4校が賛成しています。実はそこで終わりです。

北部と東部は、残念ながら賛同いただけませんでした。これなぜかって聞いてみるとやっぱりその他に優先すべき課題があるっていうふうに彼らは考えていて、すごくサービスとしては、魅力的なんだけど、まだ、他に解決するところがあるという方は、そちらにまずは使っていただきたい、というところが思いとしてはありますので、最初は市内全域にお願いしたいかなと思ったんですけどもそういう意味ではその導入を希望するところから段階的に形になるのかなとは思っています。

小山小学校って今児童1,700人ぐらい超えるんですけども、そういったマンモス校では、給食のアレルギー対応のやっている子も結構多くてですね、現状紙ベースで、アレルギー対応とか食材の何が原材料で入ってみたいなのを調整管理とかしているの、栄養士さんとか保護者さんの大分負荷になっていて、これも教育委員会さんと相談をさせていただいてるんですけども、もともとはその保護者からの要望とあと業者さんがこんなことありますよっていうことを知り合いがいたのでそこをつなげて、学校側に持ったら一番その反応がよかったのが栄養士さんで、本当にこういったサービスが助かりますみたいな感じで、導入しようと思ったら、栄養に関わるころなので、1学校じゃなかなか難しいから教育委員会でみたいな話で、教育委員会で話を進めても、なかなか判断できないみたいな感じで、若干、浮いている状況です。この2点についてはもうすでにずっと話をさせていただいてるんで優先的に取り組んでいただきたいなと思っていますので、それ以外にもいろいろあったんで、資料でお送りさせていただいたので確認いただければと思っています。

ただ、こういった保護者の繋がりがすでにできていて、やっぱりいろいろ意見交換していく中でこういう要望ってのは他にも出てくるのかなと思いま

すので、それを本当に今後も要望出てきたら、それこそ、その保護者の声を合わせて、行政さんと意見交換していただいて、我々も要望を伝えるだけで、なかなか実現難しいのかなと正直思っているところで、実際その要望をお伝えした上で、その要望を実現するためにはどういう課題があるのか。その課題を我々も聞いた上でそれを解消するにはどういうふうにすればいいのかなっていうところを我々が動いていって、よりお互いが協調する形で、より良いまちづくりというか、すべての子供の、教育環境改善のために何か活動していければと思っております。

A 市（井崎市長）

どうもありがとうございます。

特に PTA の活動が 1 歩前進する形を今模索されているということで、持続可能性を担保しないことには、形はあっても機能しませんので、そういう意味では、ぜひご努力を形にして、意味のあるものにしていただければと思います。また一定の段階からは、教育委員会と懇談をしたりとか、或いは、私と懇談をしたりなんていう会ができれば、もっと前進するのかなというふうにして伺っていました。

それから OTTA についてなんですが、具体的な調査をしていただいて制約、或いは課題がおそらくそこから見えてくるんだと思うんですが、確認ですが、この OTTA の仕組みは、まず、見守りスポットの設置には初期費用がかかる、それから小山小の場合は、全員が加入されていてということですけど、南流山小学校の場合は 4 割が加入していて、それ以外の仕組みを使われている方も 1 桁いらっしゃるということでした。

あと、おおぐろの森小では、別の GPS 機能が入っているものを、1 年生は全員で、2 年生は約 2 割使ってらっしゃるということで、OTTA の役割とか機能とかいうのは、一応存じているつもりですけども、何時何分にどこを通過とかはわかるわけですけども、現在位置はわかるんでしょうか。GPS 機能が OTTA にはオプションか何かついているのでしょうか。

私どもは、GPS 機能の方が要するに親でも GPS 機能をつけて、代替にしている方が他にいらっしゃるということと、警察などからは、やっぱり防犯カメラを設置していて、これからも増やしていくことで、万が一のときに犯人検挙に繋がる、或いは手がかりになるということで、この OTTA よりも、防犯カメラをとということで、懇談したときに言われているんですけども、皆さん

は OTTA で、この満足感というか、その必要な役割というのは、サービスを受けられているんでしょうか。それともオプションとして GPS 機能が必要だと思っている方が多いのか。この辺はいかがでしょうか。

Q 市民

実際、7 割ぐらいの方が使われていて、学校に到着すると通知機能でその通知が来るようにもできるんですけども。それを使われている方っていうのがそのうちの 8 割ぐらいだから、5 割強ぐらいの方は使われていて、それこそ学校に着いたなどか、今ちょうど学校を出ようとするところだなどかがよくわかるということ、要は、子供が帰ってくるんでそのための準備ができたりとかっていうところは結構使っていただいている形です。

ただ、これ実は有料プラン限定になるんですけど有料プランだと確かに 1 割 2 割と減ってくるので、すべての方が出ていうところはまだ課題があるのかなと思っていますけども、実際あった事例としては、学校から帰宅する時間だけ子供が帰ってこない、その方は、有料プラン入ってなかったんですけども、無料プランに入っていたってということで、警察と連携した上で、OTTA さんに問い合わせ、このスポットを何時に通りましたみたいなのがわかったと。

今実は、なるべく多くのところ検知できるってことでマンションとかにスポットをつけさせていただいて、マンションでその時間帯いるってことがわかって、特に、出ている感じもしなかったのも、そこを中心的に検索して見つかったっていうところは、実際、非常に役立ったっていう事例はありますので、その GPS の違っているというのは、確かに GPS は位置情報、ずっと精密な情報取れるんですけども、やっぱりコストが全然違うかなと思っています。市で導入する場合には、1 校当たり 100 万円で導入可能と話を聞いています。

防犯カメラは導入するのに多分 1 台当たり数十万とかなと思っていますけども、費用として格段に安くできます。これ、なぜそういうしているかっていうと、スポットを絞っているっていうところと、あとはその地域の方にも見守りスポットの役割を果たしていただいているってところで、全体として見守りスキームを作っているからそれだけ安価にできているってところはあるのかなと思っています。

A 市（井崎市長）

私自身或いは教育委員会もそうだと思いますが、他の同じような見守りシステム或いは見守りシステムに GPS が入って、料金の比較とか機能の比較ももっと精査していかないと。こういうサービスが他にもあって、それには GPS が付いてくるとかですね、いろいろ情報があるので、もう少し精査して、税金を使って OTTA を導入することが、意味があるんだってことを、確認していかないと、なかなか全面導入にはならない。或いはするときにどうしてもその説明が必要なので、エビデンスをですね、皆さんの方からもまた提供していただいて、導入したけれどもこちらの方がよかったとかってなると行政上はですね、すぐ導入してよかったというよりは、こっちの方がよかったのに何をやっているんだという批判になってしまうので、担当としても、そこはこれがいいからこうしたんだってことが明確に説明できないといけないので、これはもう少し調査をさせていただきたいのと、皆さんもそのエビデンス或いは比較検討するときですね、専門家がいればですね、それはご協力いただいて、情報提供それから何を調べたら意味があるんだってというようなことも含めて、教えていただければと思います。

税金を使ってやる根拠を作らなきゃいけないので、精査させていただきたいと思います。

それからアレルギーのところですが、いいご提案なので、栄養士さんたちもそうおっしゃっているということで、それはよく理解しています。

流山市で現在利用している、千葉県の給食会が無償提供している献立作成システムがあって、それと流山市のこの給食献立作成システムは連動しているので、千葉県学校給食会に、この要望をしました。回答が、今後考慮していきたいってということで、次回の見直しのときには、検討されるのではないかというふうに思っています。

流山市独自にこのシステムを見直していくということ、ペーパーじゃなくて、システムにするというところが、千葉県の学校給食会のシステムと連動させていきたい、或いはいかないと二重になるということで、県の方の給食会が今後どう動くかまた早く動いていただけるようお願いしていきたいというふうに考えています。これについてもまたご意見、或いはご提案があればこの後、お願いいたします。

あと冒頭の PTA の活動について、新しくできたところ、会議が持続可能で機能するということと、そのために教育委員会や市に対して、政策、施策に

ついでご提案をいただくというのは、ありがたいことなので、これは早くそういう段階に持っていきければと思います。

まずそうすることで、今、皆さんの取り組まれている努力が形になり、持続しやすいのではないかなというふうに思いました。

ぜひ1歩前進できるように、一緒に考えていければと思います。

私と教育長が同時に出るような形で、懇談をしましょうっていうようなことで、ご提案いただければ、日程調整をして、会は開けると思います。

Q 市民

よろしくをお願いします。私は一昨年定年を迎えて今61なんですけれども、一応会社勤めをしています、嘱託という形で、多少時間ができたので、今まで自治会とかっていうのを、全く素通りしていたので、妻に任していましたので、班長とかってのが回ってきたんで、1年間やらせてもらいました。

自治会はみんなすごく一生懸命やっていて、熱意があるんですけども、一抹の不安を感じるのは、班長で班17軒あるんですけども、ほとんど高齢化が進んでいて、班長できないお宅も何軒かあったり、将来的にですねどういふような自治会の形になっていくのか。今やっているのって、多分、お祭りとかですね、ごみ拾いの日、専門用語知りませんが、そういうのとか見守り活動ですね、というのを具体的にはやっていたりします。会費が月に300円ですね、現金で回収をしています。

単純に班長になったときに、キャッシュレスできないのかなあとか、それを簡単にこう思ったり、例えばごみの収集のときはですね、ハイエースとか1台借りてですね、ゴミ袋を持って行って、軍手配って、飲み物配って、鎌配って、時間が終わったら回収してゴミ積んで持っていきっていうふうにはできないのかなとか、それで横串を刺して点々と回っていけば、ある程度いい仕事なんじゃないのかなとかっていうのをこう思ったわけですね。

こういうのを、いろいろやると考えるわけですけども、皆さん本当に一生懸命役員の方やってらっしゃって、毎年同じことをずっとやっていくので、将来の展望が全く見えないというところがありまして、これについて例えば市とどういふふうに絡んで、お話すればいいのか、こういったことについての交わりのところをお聞かせ願いたいというのが1つと、皆さん自治会には、学校が関わったりすると思うんですけど、学校と自治会って親和性がよかったりすると思うんですよ。

これから将来について、例えば、モビリティ・アズ・ア・サービスみたいな話とか、電気自動車が出てって、スマホで予約すればそこを通りますとかって、おじいちゃんおばあちゃん乗れますよとか、そういうのができると思うんですけど、そういう取り組みやってますみたいな話はよく聞きますけど、じゃあそれ操作する方のおじいちゃんおばあちゃんできるんですかって話になると、どうやってやるのっていうと、電話かけてみたいなの、なっちゃうわけですよ。そういうのを、じゃあどうやって教えるかって言ったときに、大人が教えると、個人情報の問題とか、詐欺の問題とかあるんで、多分中学生ぐらいが、おじいちゃんおばあちゃんに話をするとか教えるのが一番いいんだと思うんですよ。そこのところで学校と自治会の問題って、多分親和性が高いんだと思うんで、この繋がりをですね何かうまくこうやってくれるように、市で取り組みさせてもらえないかなあっていうふうに思った次第です。

今後の自治会のあり方をどうするか、或いはその学校と自治会をどうするか。これについて何か、お聞かせ願えればなというふうに思っています。よろしくをお願いします。

A 市（井崎市長）

質問された或いは問題意識として感じてらっしゃることは、流山市の自治会の多くが抱えている共通課題です。多面にわたりますけど、この最大の共通項は、高齢化で、自治会のなり手がいない。それから、役員がいない。それから、若い人が増えてきて、東初石2丁目でもそうだと思いますが、若い方が今世代交代が進んできていて、その方々が自治会に入っていたというふうに、前回お祭りや文化祭で伺ったときに会長からも伺いましたが、とにかく流山市全体としては、高齢化と、それから若い方々が入ってきたときに、若い方々と一緒にやっていくところの難しさというか、連携して、うまく前へ動かすところがなかなか難しい。

これは逆に若い方々からもそういうのは聞いていますし、年配の方々からも、若い人たちが入ってくれないとかっていろいろ立場によってあるのは、流山市としても認識しています。流山市としては、この自治会を活性化するために、3つのアプローチをしています。

1つは、自治会運営そのものを或いは特に事務負担ですね、事務負担を軽減するために、この情報共有をICTを活用してやっていくっていうこと、こ

それはもう、長年同じ課題に対して取り組んでいる自治会もありますので、流山市としてはこの ICT 活用を他の自治会同士で情報交換していただくような場を設けたりしています。

それから 2 点目に、自治会の活動を、自治会員はもちろんですけども、自治会に入らない方とかですね、それから、自治会活動にお世話にはなっているけども、実際には積極的な参加をされない方もたくさんいらっしゃるのので、自治会でそれぞれどんな活動されているのかを、流山市のホームページで情報共有するために掲載をしています。

それから、3 点目に、この各自治会のホームページを立ち上げていただいて、そして ICT の効果的な活用などを、取り組んでいる自治会もありますので、そういったことをとにかく情報共有していく。

具体的には、昨年ですね、ちば自治会サミット in 流山というのがあって、これはもう千葉県内から集まった自治会が積極的にいろいろやっている事例を発表して、それを学びにこられた方々が多くおりましたけども、その参加者の 8 割は、ぜひ流山で再度こういったイベントをやって欲しいということで、今年の 1 月 20 日に、同じような会を生涯学習センターで流山市の自治会が、流山市の自治会にプレゼンすると、そして意見交換するという場を設けました。

そこではですね、いろいろ出ましたけども、1 つは、ICT 使ったり若い人も取り込んでやっているパークホームズ流山セントラルパーク自治会の事例とか、それから十太夫自治会で、現役の方でしたけども、もう何とかしないといけないってということで、活動を始めて、やっぱりその自治会の前例踏襲とか今までのやり方だと、若い人が参加したくてもできない仕組みになっているので、これをもっと ICT 活用したり、それからこの自治会長さんはまだ仕事してて、家庭もあるので、そのバランスをとるためにやっぱりできるだけ事業の見直しをして合理的に、効率的にするということでの取り組みを紹介されたり、それから、これはおたかの森西 4 丁目自治会では、若い方たちが非常に増えてるところなので、お祭りの企画を、もう 20 代から 40 代の若い人達にも投げて、その人たちが、今までの前例の呪縛から解き放たれてですね新しいお祭りを作った、こういった事例を紹介し合って、どうやってそこへたどり着いたのか、それから何が課題だったのか、それから今まだ課題としてどんなものがあるかなど、こういったことを流山市としては、年によって違いますが、自治会同士の情報交換、そして完璧な事例ってのはどこに

もないので、やっぱりみんな課題を抱えながらやっていますので、とても参考になる発表会、意見交換会になっています。

こういったことを流山市は続けて、地域性もあるし、正解もないので、とにかくいろんな事例でどう工夫して、何を克服して、けどまだこういう課題があるって言ったようなことをですね、意見交換しながら、ご自分の自治会でうまく使っていただくということが、有益だというふうに思っています。

次年度、また冬の時期になってしまうと思うんですけど、その時には、ぜひご参加いただいて何か持ち帰っていただければと思いますし、場合によっては、東初石2丁目の自治会っていうのは、パトロールでも、見守りでも、自治会としては非常に活発な自治会ですよ。場合によっては、東初石2丁目で取り組んで出している成果も、ぜひ発表していただきたいというふうに思います。

Q 市民

どうぞよろしくお願いいたします。

私も自治会活動のあり方についてということで、ご意見をお聞かせ願えればと思って参加させていただいた次第です。

私申し上げたいこと、或いは伺いたいことっていうのはですね、煎じ詰めれば役員の新陳代謝をどうやって促していったらいいんだろうかと。

具体的に若い世代の役員を増やすにはどうすればいいんだろうかというのがこのところずっと考えていることなんです。なぜそういうふうに思うかと申しますとですね、そういうような問いかけというのは今までもあったと思うんですけども、特に最近はこういうことを考えていく必要があるだろうと、1つはコロナやはしかといったパンデミックの問題ですとか或いは毎日報告されている千葉県東方沖地震の恐怖ですとか、そういうことがありますと地域単位での対応ってのは一層迫られているようなご時世なんだろうと思うんです。

そのためには自治会活動ってのは、さらに、もっと多くの人がインプットされるような機構になっていく必要があるんじゃないかなと思います。事例の紹介ですとか或いは事例の発表だとかっていうのはあるんですけども、なかなか現段階での自治会の役員もしくは上層部というのは、なかなかそういうところに目が行かないように私には見受けるんです。

なので、こういうようなパンデミックだ地震だというような状況の中で、

対応の核になるべき自治会っていうのもですね、現状というのはいま皆さんもよくご存じのように、役員はほぼ固定していて、言ってみれば概ねの高齢者クラブ、クラブ活動みたいなもので、中でやっている人が、あえて言ってしまうと、これでいいだろうというような自己満足の中だけで、果たして自分たちが足りないものが何なんだろうどうすればいいんだろうというようなところの振り返りってのが足りないように私には見えるんです。

そのために若年層が少数ももちろん働いているということがありますんで、なかなか積極的に顔を出すということは難しいんだと思うんですが、それでも顔を出せる或いは参加できるというような方法を考えていく必要があるんじゃないかなと強く思うんです。

ということで1つは、自治会の現状と課題を自治会の内部で、どういうふうに見つけてどういうふうに対応していけばいいかということ。それからそういうことを促すために、行政はどうすべきかどうあるべきだろうかと、それぞれに自治会にしろ、市にしろそれぞれの課題があるんじゃないかなと思うんです。それで、自治会の課題とすれば今現状は申しあげましたように、役員をやった人にちょっと聞いてみたりするとですね、あんな物を二度とやらないとやりたくないなというようなことを言う人を2、3、私は見ました。なので、若い方ですね、自治会活動に手を染めてみようかなと思っている人も、そんなことを聞いたらどう思うだろうかと、強く感じるわけです。

従って、自治会の現状、課題というのは、役員を増やして、できれば若年層向けの方策。こういうのをどうやったら増やせるだろうかという方策をですね、もっと積極的に考えていく必要があるだろうと思うんです。

その意味ではですね、その自治会内部でも、出来事の案内と、広告という趣旨が強い、自治会会報ですね、広報誌、これを本来の広報という役目の方に振り向いて、単に出来事の紹介とか案内とかがあってということではなくて、やはり自治会ある地域の中に、みんなと暮らしているんだ、そういうことの素晴らしさだとか、自分もそれだったらやってみようかとかというような意欲を起こすような広報誌である必要があるんじゃないかなと。あと新しい人たちに目を向けさせる1つの大きなメディアですので、広報のあり方というのも自治会の現状の中では、考えていくべき課題なんではないだろうかなあというふうに思います。ということで、核になるのは自治会内部のものと、もう1つは、市がどうあるべきかというところで考えていくと、やっぱり市と

してもですね、果たして行政がどこまで自治会にタッチしていいのかという問題が一方ではあるんですが、でもできることは他に何かないだろうかということを考えていった場合に、市としては、自治会内部の自浄作用といえますかね、或いは反省、そんなものを促すような、外部刺激っていうのを何か考えていく必要があるんじゃないかなというふうに思います。

そういう意味ではですね、先ほども自治会の広報のところで触れたんですけども、市としても、せっかくマーケティング室があるわけですから、マーケティング機能の拡充ですとかをどうすればいいかっていうところの観点からですね、広報誌の位置付けっていうのをやっぱり見直していったらどうだろうと。自治会×市の行政というところでは、広報誌の位置付けをもう少し直したらどうかなということを感じます。先ほど自治会の中でも申し上げたように、言ってみれば出来事の案内と報告だけ。これだと、いわば広報室でなくてもできるような仕事ではないかなと私は思うんです。編集室でいいじゃないかと言うようなふうに思います。何度も申し上げていますが行事の予告と報告、そういうような機能で終始しているように思うんです。

ということで、市としても、市の広報活動ってのはもっと攻撃的になっていいんじゃないだろうか。攻撃的にと申しますが、言ってみれば、高度のパブリシティ活動の採用っていうのをもっと積極的に考えていったらどうかなと思います。住民間に自治会活動への参加意欲を高めるための PR 記事を何か考えていったらどうだろうと。先ほども申し上げましたように行政が自治会に入っていくってのは難しいんでしょうけど、ただ、何らかのパブリックリレーション活動って何かできるだろうと思うんです。例えばですが、広報誌に投書欄みたいな設けて、例えば自治会の役員の誰々さんにこんなことで助けられましたよみたいな、言ってみれば、投稿のですね、誰彼平等ということでもいいんじゃないかなと。積極的なパブリシティ活動ということで考えれば、そういう意味では、選定ですとか採用基準というのを、多少バイアスがかかってもある方向に持つていくためには採用基準みたいなものを独自に考えてですね、恣意的な PR 活動をやっていったらどうかなというようなことを考えます。

そういう意味では、今現在は広報室の私の知る限りでは、秘書広報課でもってコントロールされているようなんですけどむしろそういう意味ではマーケティング課の仕事ではないのかなというふうに私はちょっと感じます。

もう1つは、課題としてマーケティング機能の拡充発表というようなこと

を申しあげましたけどもやっぱり、複数の自治会でさっきお話が出ましたけれども、情報交換の機会作りを働きかける必要がもっとあるんじゃないかなと思います。

会議体はあるようなんです。私自身もコミュニティ課でもってお話を伺いして、おたかの森の非常に進んでいる自治会の方にいろいろ取材というほどのことではないですけどご意見お聞きしましたら、確かによくやっておられるようなんですけども、でもこういうことを提案してもなかなか通っていかない。というならば、やっぱり市の方からですねそういう水を向けるようなことをもっと積極的に考えていただきたいなあというようなところがありました。

A 市（井崎市長）

冒頭に教育委員会 PTA でご提案いただいたこと、非常に今回テーマが、皆さん同じベクトルの課題のように思うんですけども、まず、自治会活動というのは、今流山市が約 180 数ヶ所ありますけども、もう本当に規模も違いますし、年齢構成も違いますし、それから年齢構成の変化の度合いも、もう地域によって全く違いますので、それに対してですね、全部の自治会或いは多くの自治会に訴求する、流山市が広報で何か 1 つのことで皆さんにピンと来ると言う或いは動かせるようなことは、なかなか厳しいと思います。

ですから流山市は早くからホームページ、それから、その自治会で課題ごとに、取り組み事例の紹介や意見交換会を続けていて、これについて、私は効果が上がっていると思いますけども、かつて流山市の広報でも、自治会に入ろうというキャンペーンをして、その時にいろんな細かい記事もありますけれども、市としては自治会活動が活発になる或いは衰退していかないように、水を向けることは必要なんですけども、その発信する内容が、多くの自治会に共通してるかというとなんて千差万別ですので、時折、それはやっていきたいと思いますし、それから、この情報交換会は常にやっていきたいと思えますけれども、江戸川台東の自治会も、その時その時でやっている内容や雰囲気が変わるのかもしれませんが、かつてはとても先進的な取り組みをたくさんしていただいていたところでもありますので、江戸川台東の自治会のいろんな事例の懇談会に、役員、或いは担当者 1 人が来るのではなくて、何人か来ていただいて、皆さんが共有して、何か方法を模索してくってということが、実際には有効ではないのかなと思います。

流山市の広報でもそういう特集号は、これからも計画していきますが、きっかけになる場合もあると思いますが、それで変わるというよりは、例えば市野谷自治会とか、シティテラスおおたかの森ステーションコート自治会は、過去に事例を発表していたグループですけども、若い人たちに参加してもらうために、グーグルフォームを活用して、スマホから加入ができる、そして、ホームページも作ったという事例、それから、高齢者の方と、若い方々が、おおたかの森の北だったかと思えますけども、北にもいくつか自治会があるんで、特定はできませんが、高齢者の方々が運営をされていたけれども若い方々も自治会に入りたい。そのために回覧板と集会のやり方では参加できないので、若い方々がICTを作って使って、若い人たちが入れるような、或いは、自治会活動を知ったり、参加できる仕組みを作って、その仕組みを作らせてくれというところまでに1年以上、話し合いでかかっているんですけども、その地域に応じて、やり方も解決策も違うと思えますので、やっぱりいろんな事例を情報共有することで、ヒントが見えてくるのではないかと思います。

それから、この自治会懇談会に出てきている自治会の共通項は、ご自分の自治会にこういう問題がある或いはこのままではこうなってしまうという課題があるという認識がある方たちがこられている。問題がなくて順調にしているという場合は、参加されませんが、そういうことで、ご提案の自治会活動の中に市が入っていくことはもちろんできませんが、自治会活動の情報交換、それから情報提供、それから広報でできるのは、自治会というのがこういうふうにやって、実際に皆さんの生活に役に立っているんですよというように特集号は、時折、出しますけれども、この市の広報で或いはポスターもですね、自治会に入ろうというポスター、非常にインパクトのあるポスターで、これも市民の協力を得て、イラストレーターの方が書いてくださってこれは大変好評でしたけれども、だからといって残念ながら、そのポスターの認知度はとても上がったんですが、それでもって自治会に入るってことはまずないんですね。自治会の会長さんはじめ役員が、若い方々のところとか、それからアパートが新しくできるところに、オーナー或いは会社に行って、そして会員に入ってもらおうという約束を取りつけるとか、そういったことをしていかないと。どちらかという戸建住宅がいいのにアパートができていく場合に、自治会員を取り込むためにはそういう個別の活動も必要、ICTの活用だけではなくてですね、そういう個別のリクルートもとても重要だというふうに思います。

そのことを一生懸命やってらっしゃるのが、おおたかの森南の、あそこもいくつかあるんですが、昔からある自治会なんですけども、そこはアパートも全員入っていて、加入率 100%を今のところ維持しています。

入ると、どういうメリットがあるかということをやっぴり示しながらやっていけないといけないので、それぞれの地域の課題、高齢者だけなのでどうにかしなければいけない場合もあるし、若い人たちをどうやってリクルートするか、或いは若い人たちが動きたいけれども、従来のやり方を踏襲してるために若い人たちが入れないって若い人たち困ってる事例もいろいろありますので、流山市としては、繰り返しになります自治会の意味、それから、とにかくいろんなテーマで情報交換をしていただいて、皆さんが持ち帰っていただくということが重要で、流山市が1つのパターンを出して一律に何かをやるということでは約 180 ある、自治会には響かないし役に立たないと思いますので、情報共有、情報紹介をやっぴり積極的に続けていくしかないというふうに、私はいろいろな経験を経て、この数年そういう思っております。

A 市（司会）

チャットにおいて、「来年度からデジタルトランスレーション担当の自治会副会長を務める予定です。自治会内の繋がりには SNS を構築し始めたところということで、自治会間の繋がりも SNS で構築できるといいのかな」というご意見があります。SNS ですと例えば LINE とかですね、あと X とかそういうところだと思うんですけど、もしよろしかったらご提案をいただければと思いますけれども、よろしいでしょうか。

Q 市民

私、おおたかの森北東自治会なんですけども、自治会の方も若い世代のトランスファーってのはかなり気にされていて、それこそ八木北小の PTA の本部役員の方とか、小山小の本部、両方とも入っていて、それこそ自分たちが活動できるような形に変えたいなみたいな話ですので、実は自治会や活動自体っていうのはもう本当に、防犯カメラを設置したりとか、しっかりとやっているところやっていますけど、そういう意味でそれこそホームページを作った上での広報活動とか、あとはそれこそ若い人が参加しやすいように PTA でもやっている LINEWORKS を自治会の方に取り入れていて、試行的に役

員さんとか班長さんとかを入れ始めているところなんすけども、それを全部家庭に導入してもらって、それこそ回覧版まわしたりとか、あとはその自治会の意見を吸い上げていたりとかっていうところを、やっていきたいなと思っているところですね。やっぱりそういうことを他の自治会どうしてるんだろうと私も正直かなり気になっていたところだったんで、そういうこと今紹介いただいたその自治会の懇談会ですかね。非常に参考になったなと思ったんですけども、それこそなんか、こんなのがありますよというのが何か公開できるものがあればぜひいただきたいなと思ったんですけども、いかがですかね。

A 市（井崎市長）

コミュニティ課に連絡をいただき、こういうテーマでどうだっていうと、その分野の事例のある自治会を紹介しております。

一昔前にはですね、ご近所の底力っていうことで、自治会の事例を紹介するコーナーが、ホームページの中にあっただんですが、今はないと思いますが、コミュニティ課にご連絡いただいてこのテーマで、先進事例とか或いは何かやっている自治会をとということ、お問い合わせいただければ、ご紹介できます。

Q 市民

私の方から質問をさせていただこうと思うんですけども、現在、開発が進められております初石駅の東口の事だったり、あと 10 年以上前に運河駅の東口の広場供用されたりとか、新駅舎ができたり、そのあとのお話について、聞こうと思うんですけども、初石駅の方は今新しい駅舎が建設中ですよね。まだ、初石駅の方はバスが通っているところがないと思うんですけども、西口の方は確かありましたよね。東口の方がまだ再開発ができていないと思うのですが、新しい駅舎ができた後は、バスの交通網とかそういうのは整備されるんでしょうか。

A 市（井崎市長）

初石駅について、お答えします。

今橋上駅化の工事に着手して、自由通路や橋上駅舎が完成するのは、来年（令和 7 年）の 12 月を予定しています。それに伴って、自転車、車をどう整理す

るかなんですが、東口はですね、東武鉄道の用地だったところは、駅に隣接している細長い土地ですが、そこは流山市が購入をして、簡単に車が人を下ろしたり乗せたりする程度。それから、自転車駐輪場、そして歩行者が中心の広場になります。広場というよりは、交通アクセスを確保すると、線路伝いにその細い道があってその東側は、昔から住んでらっしゃる方々が多いんですけども、そこについてですね区画整理だとか道の拡幅だとかについては、同意を得られていませんので、いわゆる車でロータリーのような形のもの、整備はしません。

東口は、駅前から閑静な住宅街になりますけども、自転車や人、それから、車もおそらく一方通行か何かで、人を降ろすぐらいに対応できるように計画をしています。

西口がですね、GLP のバスだとかが入り出していて、駅の広場が、そもそも狭い広場で、カオスになっていますけども、基本的にもうほとんど道路も含めて、東武鉄道が持っているんですね。

東武鉄道が主体的に全面的に開発をする計画が全くなくて、市とやりたいということなので、流山市の方で、東武鉄道と一緒に協議をしながら、そして東武鉄道に出してもらうものは出していただきながら、全部流山市が負担する形は避けて、西口の整備について次年度から協議に入って参ります。

ここは、本当に危険な広場になっていますので、これをきちんとしたロータリーにする。それからそれに伴って、多少東武鉄道の持っている土地について、都市計画的にどう整備していくかっていうところを協議して、おたかの森のような広場ではないですけども、とにかく今のカオスの状態は避けて、それなりの空間、そして快適性、安全性を確保するような、西口広場の整備、それからそれに合わせて、おそらく道路等も変わりますので、西口駅周辺の町並みも変わってくるような形の整備計画を作っていきたいと思っています。

東武鉄道もこれについて、今まで二、三年前まではですね、コロナの前も最中も非常に消極的でしたけども、今は東武鉄道も協議をして、広場を、それからその周辺を、何とかしたいと思いつつありますので、しっかり協議をして、また、流山市が全部財政的に負担をすることもないように、仕組みを作って、形にしていきたいと考えています。

Q 市民

ありがとうございます。あと、運河駅の東口なんですけれども、2013年に新しい駅舎ができたんですよね。広場が半年近く後に共用されるようになったんですけれども、運河駅の方は、まだバスが整備されていないと思うんですよね。市バスだったり、そういう運行の方は、整備されるのかどうかかわからないんですけれども、その予定は考えておりますでしょうか。

A 市（井崎市長）

もうご存じだと思いますけども、バスもトラックも皆そうですけど、バスの運転手不足、それから、今までは、賃金が安い、報酬が低いっていうことで、集まらないっていう傾向ありましたけども、今もうとにかく人手不足。そして、特にこの4月1日から働き方改革の一環で、連続して就業できる時間が制約されます。

もう全国各地で民間バス路線の廃止、廃線それから減便が出てきます。ぐりーんバスも、朝、最初的一本とか、夕方9時まで走っていますけども8時以降は、利用者が非常に少ないのでこれも減便することで、もう決まっています。

そういう中で、新しいバス路線を、運河周辺の場合はその市街地の奥行きが非常に狭いので、これはバス路線としては成立しないだろうし、バス路線を増やしていくようなことは、運転手不足、それから、働き方改革に伴うその運転手の確保がもう到底できない。むしろその減便廃線の方が、今どんどん進んできていますので、運河駅前にバスが乗り入れてくってというようなことは、民間からも聞いておりませんし、その需要もおそらくないというふうに思います。

ただ1つ開発で言うところの東口の駅前広場に接続する形で、東側の一番外れですけども、大型のマンション開発の計画が今動いています。

これは令和6年2月に大規模計画として出てきましたので、これから2年半後ぐらいでしょうか。そのマンションが入居になると思います。それから人は大分増えますけども、バスの乗り入れというのは今も考えておりませんし、おそらく、もうないのではないかと考えます。

以上